

第 10 章 自己点検評価

10-1 学長室

達成目標（1）

学内諸活動の自己点検評価を毎年実施し、改善へと結びつく自己点検評価体制を構築する。

目 標

教育研究年報の在り方を検討し、自己点検評価活動と連動させる。

2012 年度目標：自己点検評価報告書の年報としての編集を進める。

現状説明

昨年度から、自己点検評価を毎年実施し、改善へと結びつく自己点検評価体制を構築することを目標に準備を進めてきた。その一環として、自己点検報告書を教育研究年報として編集を行い、翌年の年度内（3 月）に完成させることを実施している。今年度は、2011 年度版の年報作成において作業の効率化を行った結果、昨年度よりも早い年末（12 月）までに完成させることができた。この実績を踏まえ、来年度以降は、教育研究年報を年内に実施し、報告書としてまとめることが定着させることが可能となった。

点検・評価

<行動計画内容の達成度> S

2011 年度版の教育研究年報を、昨年度よりも早く年末（12 月）までに完成させることができ、当初の目標を十分達成することができた。

<成果と認められる事項>

教育研究年報の年内完成を実現させたことは、単年度の自己点検評価体制を構築するために重要なことであり、改善へ結びつく自己点検評価を実施する見通しがついた。

<改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方策>

単年度での自己点検評価活動を今後数年は同様に継続していく。

<改善方策>

特になし。

達成目標（2）

学部等より提出された自己点検評価結果と改善策を「大学評価委員会」が点検して、改革成果に関する評価と改善策を付して学長に報告する。その結果を踏まえ、学長は、毎年3月に学部等の長に対し、個別に「学部マネジメントおよび教育改革」に関する指示・課題を与える。（毎年度）

目 標

自己点検評価委員会を立ち上げ、課題抽出を行うとともに、翌年度の方針に活かす。
2012年度目標：2011年度自己点検評価報告書の課題抽出と翌年度の方針策定。

現状説明

2011年度から新たな試みとして単年度PDCAでの自己点検評価活動の運用を行っており、今年で2年目になる。2012年度は、単年度PDCAに対応した自己点検報告書の作成についての説明会を2回実施した。また相互点検評価体制の確立を行い、年度内での課題抽出作業と翌年度の方針策定を可能にした。これらの評価結果は、大学評価委員会で報告書の点検を行い、大学として取り組むべき課題・問題の抽出結果が答申として学長に報告される。あわせて、大学基準協会による第三者評価報告書においても課題が指定されていることから、これらと合わせて学長に報告される。今後は、自己点検評価活動の負担軽減を促進し形骸化を防ぐため、作成方法、提出時期、説明会等の見直しを早急に実施し、単年度PDCAサイクルと評価体制の実質化を図っていく。

また、現在の中期目標の総括（中間評価）を12月末までに実施し、学長に報告することができた。この総括（中間評価）を年内にまとめることができたため、次期中期目標の策定の準備に向けて貢献することができた。

点検・評価**<行動計画内容の達成度> S**

単年度PDCAの運用を目指し、相互点検評価活動が実施可能になり、自己点検評価報告書から抽出された課題等を年度内に学長に答申することができるような体制を継続して実施することができた。このことにより、学部長のマネジメント及び教育改革への取り組みや学部ごとの対応についても、学長から早期に指示及び課題の提案が行える体制となった。

また、現在の中期目標の総括（中間評価）を年内に実施し、学長に報告することができたことは、次期中期目標の策定の準備に大きく貢献することができた。

<成果と認められる事項>

各学部において、PDCAの運用が可能となり、自己点検評価報告書作り等の評価活動が、以前よりもスムーズに実施されるようになってきている。現在の中期目標の総括（中間評価）を年内に実施することができた。

<改善すべき事項>

自己点検評価報告書の作成や評価に関して、形骸化を防ぐとともに負担軽減や効率化を図るため、自己点検評価活動の運用の見直しが必要である。

今後の改善・改革に向けた方策

＜長所の維持・伸長方策＞

自己点検評価報告書の作成が、具体的な改善につなげられるよう、さらなる自己点検評価体制の見直しを継続していく。

＜改善方法＞

大学評価委員会において、現在の自己点検評価活動の見直しを行う。